

## 大会宣言 (案)

私たち JR 東日本輸送サービス労働組合上野支部は、昭和町ふれあい館において「第5回定期大会」を開催し、「不当労働行為根絶」「安心して働ける職場作り」を実践してきた成果と、更なる組織強化・拡大を目指していく事を満場一致で確認した。

会社は「新たなジョブローテーション施策」の名の下、人事権を濫用し本人希望無視の強制異動を柏営業統括センター分会齊藤執行委員長へ懲慥した。同じ時期に大田運輸区分会湯瀬執行委員長へも強制異動の懲慥を行っている。組合員の信任を得た分会の最高責任者である執行委員長に対する異動懲慥は、分会活動の停滞や組合運動への参加、労働組合への加入の萎縮など多くの不利益につながり、輸送サービス労組の弱体化を狙った組織破壊攻撃であり、紛れもない不当労働行為である。断じて認めることは出来ない。八王子駅パンフ配布処分事件において、東京都労働委員会は会社の行為を「正当な労働組合活動に対する不利益扱い・組合活動を不当に制限するもの」とし、不当労働行為と認定、会社に対し命令書を交付した。しかし JR 東日本会社は未だに全部救済命令を履行していない。自らの誤りを一切認めず不当労働行為を繰り返す会社にコンプライアンスを語る資格はない。会社は法令遵守の重要性を再認識し、直ちに命令を履行すべきである。8月10日には「脱退パワハラ訴訟」の判決を迎える。この間の証人尋問で経営陣による不当労働行為の事実を明らかにしてきた。上野支部では2回の街頭ビラ配布行動を行い、社会にも会社の不正を訴え多くの方が共感してくれた。この間の実践を背景に、4名の完全勝利をかち取ろう！

鉄道の根幹である「安全」が脅かされる事象が相次いでいる。抑止を確認せず線路内立ち入りの連続発生や線閉区間への進入、さらには内房線での感電死亡事故の発生と、ついに命を失う事故が発生してしまった。コスト削減の下、職場実態を無視した行き過ぎた効率化やマニュアル・システム依存に陥り、仕事の本質が軽視されている。更にはジョブローテーションによって仕事を熟知したベテランが職場を去り、教育体制や技術継承が蔑ろにされたこと、「融合と連携」の名の下、専門性が失われ現場力が低下した結果である。営業職場ではみどりの窓口の大量閉鎖により、多くの窓口が混雑しており、お客様からもサービス低下との声が出ている。コロナ禍以降、黒字化のみを優先した顧客軽視の結果である。施設・電気の組織再編では団体交渉を形骸化し、ワーキンググループによって労働条件の変更を行おうとした。安全で安心して働ける職場、働きやすい職場を現場から声を上げつくり出して行かなければならない。

結成から3年が経過し、職場で発生している問題に真剣に向き合ってきた。その姿が「このままの会社ではいけない」「社友会には任せられない」と多くの仲間に関心、加入拡大を実現してきた。支部花見BBQレクには150名の仲間が結集し、組織の必要性を実感した。また統一地方選挙の取り組みでは、議員懇談会代表のおぐら足立区議会議員の当選をかち取ることが出来た。「36線区72区間」問題では、地元自治体や地域の方と意見交換を行い、「通院・通学に鉄道は必要」「町としても取り組むので、早期復旧してほしい」との声を頂いた。地域交通のあり方について今後も地元自治体と連携し、地域・社会から必要とされる JR 東日本をつくり出す為に、議員懇談会に集う議員を市政へ送り出し、連帯の輪をつくり出していこう！

これからも上野支部は、組合員と共に足を動かす運動を推し進め、不平等や差別に屈せず、真っ当な JR 東日本グループを取り戻すために、全組合員で更なる組織強化・拡大を実現しよう！

以上、宣言する。

2023年7月29日  
JR 東日本輸送サービス労働組合  
上野支部  
第5回定期大会

第5回定期大会

大会宣言

満場一致で採択！